



認定NPO法人

きらめき未来塾 2019

報告書

今回のテーマ

グローバル国際社会を生きる

～世界との対話と自己変革～

はじめに

きらめき未来塾 塾長 鷺山恭彦

きらめき未来塾は、将来の日本を担い、支えていくリーダーを養うことを目指して、毎年、夏季に宿泊研修を開催し、本年度で15回目を迎えました。

基本理念として、①志を抱き、実現に向け挑戦し続ける「心強き人」②思いやりを持ち、共生できる「心清き人」③歴史や文化を理解し、人間的魅力のある「心深き人」④世界中の仲間とコミュニケーションのできる「心広き人」⑤強い責任感と行動力のある「心熱き人」の五つを掲げています。

本年は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の全面的なご協力のもとで、「グローバル国際社会を生きる——世界との対話と自己変革——」というテーマを設定しました。

グローバルな視点をどのように獲得し、どのような国家観や社会観で対すべきか、そこに伝統と革新をどのように織り込むのか、関係構築の方法論は何か、等々をめぐって、講義を中心に豊かな議論が展開されました。

JICAのご協力を得たことで、幅と奥行きが生まれ、普段接することのないラオス語やネパール語といった言語にふれ、JICAの学問的蓄積を学ぶことで、実践的な学習世界が新しく拓けました。宿泊研修によって、生徒たち相互の深い心の交流も生まれ、国際感覚豊かな若者たちを育てるための最適の企画となりました。

ここに実施報告書を作成し、ご支援とご協力を頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

- 開催日時：令和元年8月5日～8日
- 開催場所 研修・宿泊場所：独立行政法人国際協力機構（JICA）二本松訓練所
- 開催テーマ：「グローバル国際社会を生きる～世界との対話と自己変革～」
- 後援団体
 - ・愛知県教育委員会
 - ・大阪府教育委員会
 - ・香川県教育委員会
 - ・兵庫県教育委員会
 - ・広島県教育委員会
 - ・福島県教育委員会
 - ・大阪市教育委員会
 - ・京都市教育委員会
 - ・洲本市教育委員会
 - ・登米市教育委員会
 - ・飛騨市教育委員会
 - ・大阪私立中学校高等学校連合会
 - ・京都府私立中学校高等学校連合会
 - ・日本私立中学高等学校連合会
 - ・兵庫県私立中学高等学校連合会



目 次

はじめに きらめき未来塾塾長 鷺山 恭彦	1
1 塾生（参加者）の応募結果.....	3
2 総 括.....	5
・カリキュラム構成.....	5
・今年度のきらめき未来塾の講義の特色.....	6
・JICA 企画の概要.....	6
・研修中の出来事.....	7
・4日間の総括.....	7
3 今年度の反省と来年度の指針.....	8
・今後の課題と指針.....	8
・サポーターの視点.....	9
4 卒塾生の感想文.....	10
5 参考資料.....	19
(1) きらめき未来塾 タイムスケジュール.....	19
(2) 4日間の生活写真.....	20

1 塾生（参加者）の応募結果

本年度の開催周知は①ホームページへの掲載、②全国の教育委員会、私学協会等を通じて各高校に開催案内パンフレットを郵送もしくはデータで送付、③きらめき未来塾の理事を中心とした個別の広報という形で行いました。参加者に対しては4日間の集団生活を過ごせるかを選別するため、学校推薦と、論理的な思考力を見るための小論文（800字）の提出を例年求めております。

本年の小論文は塾生に①「私の国際貢献」、②「人間とAIの未来構図」、③「アジア共同体をどう考えるか」の3つのテーマから1つを選択させ小論文の提出を課しました。各テーマの選択人数の最多は②で次が①番、③は最も少なかったです。

さて今年度の応募者は42名、当日参加人数は41名、参加高校は23校でした。参加校と参加者数は以下の通りです。

■参加高校名と参加人数（当日参加者のみ集計）

・東京（7校12名）

私立大妻中野高校 1名／都立小石川中等教育学校 1名／私立日本ウェルネス高校 1名
私立淑徳高校 2名／都立本所高校 2名／私立目黒日本大学高校 1名／私立安田学園高校 3名

・福島（6校12名）

県立安達高校 1名／県立磐城高校 2名／県立岩瀬農業高校 2名／県立郡山高校 1名
県立白川旭高校 1名／県立福島南高校 5名

・岩手（5校12名）

県立久慈東高校 1名／県立不来方高校 1名／県立花巻北高校 8名／県立平舘高校 1名
県立前沢高校 1名

・その他

千葉 私立日出学園 2名／大阪 私立清風南海学院 1名／埼玉 私立武蔵野星城高校 1名
茨城 県立水戸農業高等学校 1名／群馬 私立高崎商科大学付属大学高校 1名

1 塾生（参加者）の応募結果

各高校の先生からのご推薦、また各高校に塾生の募集を働きかけてくださった理事の方々からの多大な支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

また今年度の塾生は男子9名、女子33名（計41名）と女子が約8割を占めていました。塾生の都道府県別属性内訳(図2参照)を見てみると開催地である福島県と、1高校で8名近い応募があった岩手県が最多で、今回参加高校数最多の東京都がこれに続きます。一方で開催地までの交通の便や、開催案内の遅れなどが重なり、今年度は遠方からの参加者が減少しました。

■塾生属性の内訳

【学年別】

1年生 15名 2年生 21名 3年生 5名 合計41名

【都道府県別】

・福島県	12名	男子	1名	女子	11名
・岩手県	12名	男子	1名	女子	11名
・東京都	11名	男子	5名	女子	6名
・千葉県	2名	男子	0名	女子	2名
・大阪府	1名	男子	1名	女子	0名
・茨城県	1名	男子	0名	女子	1名
・群馬県	1名	男子	0名	女子	1名
・埼玉県	1名	男子	1名	女子	0名
合計	41名	男子	9名	女子	32名

2 総括

・カリキュラム構成

入塾申し込みのあった全国41名の高校生に対して、塾生の学びを支援するサポーターは大学生4名、社会人1名が参加してくれました。

JICAとの初の連携を図ったため合宿スケジュール（p. 13参照）は例年と大きく異なり、きらめき未来塾の講義「グローバル社会を生き抜く」の講義は数を4つに限りしました。

きらめき未来塾の企画講義は①令和の日本に必要な「法治有徳」、②グローバル社会に対応するための術「グローバル視点」、③グローバル社会の関係性を構築する「パブリックリレーションズ」、④伝統思想を現代に活かすための「報徳思想」。

そして「国際社会」を学ぶJICAの講義は野外活動を含む異文化体験や国際理解促進のためのお話やゲーム等が用意され、塾生はこの1つ1つの意味を噛み締め、「国際社会と自己変革」というテーマに沿った講義に臨んでいました。

①西原春夫先生の授業「令和日本の国家像 ～法治有徳の平和国家を目指して～」では「令和」の文字の語源や意味を紐解きながら、令和日本の国家像について学び、後半のディスカッションでは「歴史を大きな流れとして見る」をテーマに塾生たちは令和日本への様々な視点を見出しました。

②渥美育子先生の授業「グローバル視点」ではグローバル視点の基本を確認して、塾生の合宿生活や現在の生活にグローバル視点を体験した。後半のディスカッションでは「人間はどこで間違えたでしょう」というテーマをもとに塾生はグローバル視点の意味や意義を噛み締めました。

③井之上喬先生の授業「次世代を担う皆さんへ～グローバル時代に必要とされるパブリック・リレーションズ～」ではテキストを用いて「パブリックリレーション」の実践を図りました。ディスカッションでは企業の実例などを用いて、塾生の将来像に優先順位をつけるパブリックリレーションが重要だということを学びました。

④鷲山恭彦先生の授業「伝統思想を現代に活かす～二宮尊徳の報徳思想と日本課題～」では「報徳思想」から現代には過去の思想を活かす事が大切だということを学びました。後半のディスカッションでは各グループ、テーマを分けてディスカッションを至誠・勤労・分度・推譲や積小為大などについて各自の意見を述べました。

・今年度のきらめき未来塾の講義の特色

- 1：各講師が工夫をこらし、講義内にディスカッションを導入し、塾生自身が考えを発表する有意義な場を提供
- 2：きらめき未来塾企画は、すべてサポーターたちによる独自の企画構成で実施
- 3：4日間を通して、塾生に「自己変革」をテーマとした自身の内面研究の場を提供

・JICA企画の概要

本年度は独立行政法人国際協力機構（以下JICA）との連携で実施致しました。きらめき未来塾の企画とJICAの企画が時間ごとに独立しており、例年とは運営方法や準備が大きく異なっています。

JICAの企画は主に、①「美味しく学ぶ、世界の多様性」、②「貿易ゲーム」、③「世界を知る、日本を知る」です。

- ①「美味しく学ぶ、世界の多様性」：事前に希望を募った5つの言語（タイ語、ラオ語、ネパール語、モンゴル語、アラビア語）から人数調整をして1人1言語を受講しました。語学学習の後には、各国の語学の先生を中心に、JICA職員の協力を得て野外調理実習を行い、各国の料理を堪能しました。
- ②「貿易ゲーム」：グローバル国際社会を生きる中で、国際経済の仕組みを理解することは重要な要素の一つです。この講座では国際経済活動のうち「貿易」を取り上げ、ゲームを通じて擬似体験することで国際的な貿易の仕組みや貿易当事国の状況を理解することを目的としています。
- ③「世界を知る、日本を知る」：事前に7つのテーマ（下欄参照）について希望を募り、各人3テーマに参加するという形を取りました。各講義、塾生は真剣な表情で静聴し、積極的な質問をしていました。

「世界を知る、日本を知る」当日講義テーマ

- ① 日本の国際協力/SDGs
- ② 世界の暮らしと開発協力～アジア編（協力隊OV等）
- ③ 世界の暮らしと開発協力～アフリカ編（協力隊OV等）
- ④ 世界の暮らしと開発協力～中南米編（協力隊OV等）
- ⑤ 世界の暮らしと開発協力～中東編（協力隊OV等）
- ⑥ 日本の地域開発
- ⑦ 東日本大震災の経験

・研修中の出来事

① 塾生の欠席

開塾前日に塾生1名から「忌引きのため参加ができない」旨の連絡が入り不参加を了承しました。

② 塾生の体調不良・怪我など

8月6日のJICA企画「美味しく学ぶ、世界の多様性」の後半で野外調理実習を行った際に何名かがブユ（ブヨ）による足の痛みを訴えました。その場での対処は現地に詳しいJICA職員の指示に従い、患部を氷で冷却し虫刺され用の薬品の塗布を行い、その後就寝まで足を冷やすよう注意喚起致しました。翌日になっても腫れが引かない塾生を事務局長が近くの「枳記念病院」へ搬送し手当を受けさせました。

その後、水ぶくれなどの症状がでた塾生には、消毒などの治療対応を行いました。塾終了後も症状の重かった塾生については事務局特別顧問と事務局長が対応しました。帰宅後、2名が通院治療を行うも、8月末現在までには2名とも完治との報告を受けました。

③ 塾生の生活について

2日目の夜、就寝時間を過ぎての談笑や洗濯機の使用などが見られたため、JICAの方から本人たちに注意喚起がなされました。きらめき未来塾側からは3日目の朝にサポーターから塾生全体へ口頭での指導を行い、今一度部屋での生活について確認を行いました。

・4日間の総括

今年度は特に準備期間の短い中で事務局・サポーターが連携してほぼ予定通り、すべてのプログラムを円滑に遂行することができました。

特にきらめき未来塾企画はサポーターのみで塾生の今後の人生に活かせる素晴らしい企画を作りあげてくれました。このことは今年度のテーマである「自己変革」の大きな部分に貢献しました。

運営についてJICAとの初の連携により、進行や塾生の管理でサポーターの労力を削ることができたと同時に、サポーターは1つ1つの企画の綿密化を図ることが出来ました。



3 今年度の反省と来年度の指針

・今後の課題と指針

「きらめき未来塾2019」では初めて、他組織とのイベント連携を実施しました。この連携は前例の無い試みでありましたが、事務局とサポーターもイベントとの新しい関わり方を多方面で見ることが出来ました。現段階で連携の成果と要点は以下の3点です。

① 良かった面

1. 財政面では今回JICAの施設を利用できたので、施設利用料を抑えることが出来ました。
2. 時間配分は、午前がきらめき未来塾、午後がJICAと分担したので、事務局と塾生サポーターにとって大事な休息と次の講義や企画の準備時間を確保することが出来ました。

② 課題となる面

今年は例年に比べて準備期間が格段に短く、サポーターの募集の遅れ、準備の忙しさが特に目立ちました。例年、3月ごろに行われるきらめき未来塾同窓会「繋がる会」でサポーターのリクルートを行なっているのですが、今年度はリクルートができず、サポーターが詳細を知る時期が遅くなりました。来年度はサポーターが十分な準備時間を取れる様に早い段階での召集が望まれます。

・サポーターの視点

- ① サポーター企画について事前にサポーター同士でワークの目標とゴールの認識を一致させることが出来ていたので進行、振り返りがスムーズだった。場の最善のための疑問や提案も活発に出たので事前にサポーター同士の目線を合わせるのは大変重要であると感じた。
- ② JICAのサポーターが無理なく活動でき、サポーター間のコミュニケーションをスムーズに取りやすくなった。一方施設の使い方や、消灯時間などJICAの管理部分で不自由な面があった。今後連携をするのであれば、双方に合わせた環境準備の必要がある。
- ③ 授業の難易度について、理解できていない塾生が多かった。
- ④ サポーターの男女比が悪く、女子生徒に対して目の届かない部分が見られた。サポーターの選定をなるべく前倒しで行えないか。また全員が揃って会議する機会をサポーター確定時に1回と開催の1～2週間前に設けたいと考える。
- ⑤ JICAの貿易ゲームや野外炊飯等などの大規模な企画が生徒間のアイスブレイクとしても非常に上手く機能した。企画のメリットや事務手続きの難易などの点から、多面的に考察しつつ今後の関係性について模索していくべきだと思われる。
- ⑥ 今回きらめき未来塾用のカメラが無かったため、1台きらめき未来塾用に購入しておきたい。
- ⑦ 今回重病な体調不良者が発生しなかったことはかなり「奇跡」である。開催時期が夏季休業と重なることを鑑みて、空調システムが充実している設備もしくは避暑地での開催が望ましい。

4 卒塾生の感想文

感想文 ① きらめき未来塾のみなさんへ

4日間ありがとうございました。きらめき未来塾さんのおかげで自分の成長をととても実感できています。

実は去年もきらめき未来塾さんには応募したかったのですが、学校内の選考で落ちてしまい、叶いませんでした。その分今年は参加できるとわかったときから嬉しかったです。このまま東京に住んでいたら人生で絶対に出会わなかったような仲間たちと会えて、初日から参加してよかったとは思っていたのですが、特にサポーターのみなさんが運営してくれていたかたぬきの企画はJICAさんの企画を含めても一番印象に残っています。その中でも、憧れの人を発表するときにひかるさんや林さんが、まだ会って間もない私たちに自分の悩みや葛藤を泣きながら話してくれたのがとても嬉しかったです。あの時に、本当に参加してよかったと思いました。他人にはあまり言えないような悩みや過去を、大勢の前で告白している姿はとても勇気をもらえました。

お二人の話は、私も実感できる部分が多く、大学生にもかかわらずサポートしてくれていた人も同じような悩みを乗り越えてきたのだと背中を押され、最後のスピーチのときに私も見て見ぬふりをしてきた過去をみんなの前で打ち明けて、晴れやかな気分になれました。今までのどんなワークよりも自分のことを知り、ほぼ初対面の状態の同年代の子たちと共有できたことは紛れもなく成長でき、自信につながりました。

特に今回は福島での開催だったため、東北からの参加者が多く、全員でもう一度集まることはほぼ不可能だと思うと、最終日には泣いてしまいました。4日間でここまでみんなとの絆を深めさせてくれたのは100%きらめき未来塾さんのおかげです。本当に本当に感謝しています。来年も再来年も、たくさん的高校生を成長させてください。本当にありがとうございました。

感想文 ② 4日間を終えて、未来の自分へ

今回のきらめき未来塾に参加し、とても大きなものを得ることができました。

初日は、不安でいっぱい みんなと話せなかったけど、2日目のJICA企画の野外活動や毎日夜に行ったサポーター企画を通して仲を深められたと思います。この塾に参加するまでの私は、特にやりたい事も将来の夢もなく、おおざっぱなイメージしか抱いていませんでした。自ら行動を起こす事もなく、高校に進学してもあまり自分について考えないまま、ずるずるこの状態を引きずっていました。それに比べて、塾生のみんなは自分のやりたい事や目標をしっかりとっていてとても驚きました。そんなみんなに囲まれて、様々な感情を抱きました。しかし、この葛藤こそが自分を成長させ、やるべきことを分らせてくれたような気がしました。

自分の未来について、深く考えるきっかけになったのはサポーター企画です。改めて、自分を分析してみると今まで知らなかったさまざまなことに気づくことができました。自分について書き出してみても、自分がどれだけ自分自身から目を背けてきていたのかわかりました。みんなを知り、自分を発見、発信することで仲間の優しさや温かさにも気づけました。

自分のやりたい事が今まで分からなかった理由は、自分の弱さや他人に見せたくない一面を見ようとしなかった自分自身にありました。向き合う事で見えてくるものに気づかないふりをして、自分で見切りをつけたり、壁をつくっていました。きらめき未来塾から帰ってきた今も、将来の具体的な職業はまだ決めきれていないけど、自分のやりたい事に素直に行動できるようになりたいと思います。そのためにはまず、自分についてよく知る必要があります。自分を受入れ、何が向いているのか、本当にやりたい事は何かを探したいです。周りの意見を聞く事も大切だけど、流されすぎず、正直になって向き合いたいと思います。

将来、今回共に活動してくれたサポーターに、仲間、尊敬される所や自分が誇れるものを増やしていきたいです。

この4日間が、こんなに充実し、自分にとって大きな財産になった事に心から感謝し、協力して下さった方々にこの気持ちが届くように日々努力していきます。

感想文 ③ きらめき未来塾を通じて気付いたこと

① 自分の小ささ

塾生の中では、個人の活動、夢、自分の意見といった情熱がとても大切にされていたように思う。既に自分で活動を企画して初めている人、多くの社長と関わりを持つ人などがいて驚いた。私は学校の中では情熱が強い方だと思っていたが、井の中の蛙であったことを実感した。

② 自分の意外な能力

講義中のディスカッションでは、グループの大半が持つものとは少し異なる意見や疑問をもつことができた。もしかしたら今後社会に出て、何か問題に直面した時に、思わぬ切り口が見出せるかもしれない。これに関しては、グループのメンバーに面白い考え方だと共感してもらえたことが自信になった。

③ 先入観という壁

4日間を通じて、私の成長の中で「先入観」が大きな壁になっていると感じた。例えばJICAの企画では、外国の料理を作って食べる企画があったが、最初は異国の食文化が口に合うか正直抵抗感があった。しかし、実際にその国の言語にふれ、その国の人と話してみんなで料理を作ってみると、とても美味だった。その他にも、友達の第一印象と、実際に考えている事のギャップに驚くことも多くあった。文化にしても人にしても、瞬時に感じた印象ではなく、自ら対象に近づき、肌で感じることを大切にしたい。

④ どんな大人になりたいか

2年生になってから大人になるとはどういうことか考える機会が増えてきていた。そんな中、きらめき未来塾では理性と共に感情も大切にしている方が輝いて見えた。ただし、その感情にもメリハリが見えたので、喜怒哀楽を表しつつも、状況に応じて瞬時に切り替えられる、そういう大人になりたい。

⑤ 人脈の大切さ

私はここでの塾生のような、夢や意見をはっきりと持っている人達と一緒にいるのが本当に楽しかった。塾生以外でも、「世界を知る、日本を知る」の企画を国内外で活躍する人と話をし、人生の多様性を知った。人と出会うことは人生の選択肢や機会を増やすことだと思う。また、面白い価値観を持っている塾生にこれからどうしていきたいか聞くと、人脈を作りたいという子が多かった。人脈は成功への最大の要素だと確信した。だから、これからいろいろなイベントに参加したり、大学やその後の人生において浅く広く、時に深く人間関係を作りたい。

⑥ 自分の居場所

私は集団生活があまり好きではなく、克服の場にしたいという思いもあり、参加したが想像よりも馴染むことができたし、ストレスも感じなかった。その要因として気まぐれな私を受け入れてくれる環境があり、同調圧力のようなものもなかったので居心地が良かった。ここで出会った塾生との関係を今後も大切にしたい。

⑦ 学校に対する考え

私は小学生の頃から受動的な授業、クラスの間鎖感、同調圧力に疑問を抱く一方で、そこに適応できない自分を劣等とみなしてきた。しかし、塾生の中には自分と同じような考え方をしている人を何人か見つけることができた。彼らは決して劣っている人ではなかったし、むしろ尊敬できるような人達だった。あれほど優秀な人達が高校中退を本気で考えていることに衝撃を受け、優秀な人が辞めなくなる学校という場所に危機感を抱いた。もしかしたら現在の不登校生徒の中には、世の中を大きく変革する素質を持つ人材がいるかもしれない。そういう人を発掘する教育機会を提供する人間になりたいと再認識できた。

きらめき未来塾を通じて、普段の生活からは絶対に得られない気づきを得ることができた。携わってくださった全ての方に心から感謝したいと思う。

感想文 ④ 未来塾で学んだ事

私は、今回きらめき未来塾における講義を聴く中で自分の未来について長く考える時間ができました。その中でまず世界の情勢について学ぶことができました。今や世界は、「グローバリズム」や「ハイパーグローバリゼーション」の中に置かれているということです。日本の中だけにとどまっている私達子どもに当然理解が困難なことなのだと思います。

しかし、今回の研修で聴き、考え、感じとることができ、自分の未来の方向性が分かりました。それは、自分の意見を明確に人に伝えるということです。日本人の多くは、自分の想っていることを心の中に抑えて、最終的に結果を出して終わらせてしまいます。

一見すると結果が出ているため良さそうに聞こえますが、「伝える」という作業がなくては、いくら結果が出た所で、自分の中だけで終了してしまいます。このような事では、世界の中でも遅れを取り始めてしまいます。そのために、世界の傾向を知り、日本の中だけではなく、世界の多くの人々に発信する能力が必要になると考えます。


だからこそ、私達日本人の母国語である日本語だけでなく、世界にある様々な言語を学ぶ、より多くの出来事、問題を共有しなくてはなりません。但し、これはあくまで将来の話で、私達は今できることを考えなくてはなりません。

そこで4日間をかけ、身近な所から自分という殻を破り、思っている事をはっきり言うべきなのだと分かりました。私達には空気を読むという固有の文化が弊害となり自由に自分の気持ちを伝えるのは難しいです。けれども、言うべきときに言うべきことを自分自身の言葉で伝えられるようにならなければならないと思います。日常の中でさえできないのならば、世界で通用する能力は身に付かないのだと思います。

日頃から、自分の想いを多くの人に知ってもらいたいという意識をもって、世界の「グローバル化」の現状に追いついていきたいです。

感想文 ⑤ きらめき未来塾を通して

8月5日から8月8日まで、福島の本松青年海外協力隊訓練所で「きらめき未来塾2019」が行われた。私は、将来やりたいことがまだ定まっておらず、それを見つけるためにこの活動に参加した。それぞれ違う目的を持ち、个性的で、住んでいる地域も全く違う高校生41名との3泊4日の集団生活を通じ、たくさんの影響を受け、そして多くのことを学ぶことができた。



一番印象に残っている講義は、2日目に行われた「令和日本の国家像～法治有徳の平和国家を目指して～」という、早稲田大学の総長をされていた西原春夫教授の講義である。刑法学の研究に携わっている方だったこともあり、法学部に進学したい私にとって、この機会に目に巡り会えたことに感動したし、すごくワクワクしていた。この講義では、今後何らかの組織のリーダーを担う私達が、大きな決断をする際に必要な、「歴史を流れて見る力」について教えてくださった。

決断をする時、大きく分けて二つの方法があり、一つは現在の状況を前提として決断することで、この方法で決断すると、感情が入り、なかなか前に進むことができないのだという。しかし、二つ目の、未来を見て決断する方法では、正しく、上手に決断することができるという。この方法で決断するためには、過去をよく知っておく必要があり、そしてそのために、「歴史を流れて見る力」が必要だとおっしゃっていた。このお話を聞いて、もっと日本史の勉強に力を入れなければと思った。

一番印象的だったのは、人が法律を守るのは刑罰を恐れるからではなくて、法律の根本にある倫理や道徳を守ろうとするからである、というお言葉だ。私はこの言葉に衝撃を受けたが、すぐに納得することができた。「人を殺してはいけない」や「物を盗んではいけない」は、誰もが生まれつき理解していることだろうし、当たり前を守られるものだと思ったからだ。道徳や倫理が法律の根本にあるものだとしたら、江戸時代前期に作られた「生類憐みの令」など、法律によって逆に現代に通じる倫理が形成されたともとれるのではないかと考察した。

また、法学を学ぶことで人にどのような影響を与えるのか、と質問したところ、犯罪と刑罰の研究をすることは戦争と平和の問題を考えることにも繋がるとおっしゃっていた。他にも、法律家は、人の心がわからないとできない職業であり、犯罪を犯した理由を考慮したり、相手の立場に立つ思考を持ったりして、温かい愛情と冷たい法律を最適なバランスに組み合わせ、判断することに必要不可欠な能力だとおっしゃっていた。その力を身に着けるために本をたくさん読んだり、普段のコミュニケーションから意識することが大切だと思った。

4 卒業生の感想文

また、私はきらめき未来塾運営企画が3泊4日の中で一番心に残っている。自分の好きな事、嫌いな事、いろいろな自分の感情を書き出して、はじめて自分について深く考えることができた。サポーターさんの優しく的確なアドバイスや、メンバーが真剣に考える姿勢の影響で大きく前進することができた。周りの皆から沢山のことを教えてもらったし、自分に厳しくて、他人に優しいサポーターさんは今は憧れの存在で、本当に素晴らしい経験になった。

きらめき未来塾を通して、私はきらきらしながら夢を語る姿や高い学力とか、コミュニケーション能力を持っている皆に強く影響を受けた。その中で自分は劣っていてまだまだ力不足であることを実感した。だから、勉強をたくさんして、今回気づいた、足りないところを補っていきたい。そして、将来は法学を勉強して、1人1人の日常が平和で安心して生活できるような日本にするために貢献したいと思う。

感想文 ⑥ 4日間で

私が「きらめき未来塾」に参加した理由は参加費が無料で、部活との調整もでき、なによりこの研修をJICAの訓練所で行うからでした。全国から高校生が50名ほど選ばれるということで、入塾できるか不安でしたが、無事入塾許可を頂きとても安心し、絶対に充実させよう、少しでも自分を変えようと思い臨みました。


4日間という短い期間だからこそ体験できた様々な講義やJICAさんの企画、サポーターの方々の企画、どれも普段の学校生活では体験できないことで新鮮で刺激がありました。その中でも特に印象に残っているのは、JICA企画の「おいしく学ぶ、世界の多様性」です。各自5つの言語に分かれて、最初にその言語を少し学んだ後、野外へ移動し、その言語が使われている国の料理を、教えてくださった先生と一緒に調理しました。違うグループの料理をもらったり自分たちの料理をあげたりして、あっという間の時間でした。

私はアラビア語を選択し、他の班の人と仲良くなれるかな、アラビア語って難しそうだけど大丈夫かな、と少し不安でした。でもいざ始まってみると、意外と皆と話せるし、アラビア語も少し複雑だけど楽しいしで、不安は吹き飛び、協力する楽しさや嬉しさ、充実感を得ることができました。

また、グループ内で役割分担をして各自決められた役割をしていたときも、（私は竹箸を作っていたのですが）班の人やサポーターさん、JICA職員の方が声をかけてくれたり、アドバイスやコツを教えてくださいたりして、同じ竹箸担当の子と話しながら楽しく行うことができました。筒状の竹をナタで半分に分るところから始め、最終的にはカッターでより箸に近づけるために先端を削りました。ナタを使ったのも、一から箸を作ったのも初めてだったので慣れるまで大変でしたが、何膳か作ってからは力加減や箸の細さもある程度直感で分かるようになりました。普段何気なく使っているものも一から作ることで、愛着がわくし、何より、万が一の時に役立つのではないかと思いました。

この塾での様々な講義や企画、友達との会話を通じて、今までの自分より少し成長できたと、終わってみて実感しつつあります。竹箸作りで新しいスキルを身につけ、自分の可能性が広がったこともそうですが、友達との何気ない会話の中や講義中の質疑応答の時にも、自分より歳下の子や同学年の子が自分の意見や疑問点をしっかり発言していて圧倒され、私も恐れずに発言しないと遅れをとってしまう、せめて自分の意見を明確にしながら講義を受けようと、集中力持続に繋がったということも多々ありました。

その他にも、人に対して少し積極的、素直になれたと思います。今までは、周りの空気に合わせて、違うと思っても口に出せずいたり、誰かと友達になりたくても話しかけられるのを待っていたりと受け身の姿勢でした。ですが、全国から選抜された高校生と会えるという貴重なチャンスを逃したくないと思い、初日はなかなか上手く行きませんでした。徐々に慣れて最終日にはほとんどの女子と話すことができました。初日からもっと色々な人に話しかけることができたら、全員と話すことも夢じゃなかったかもと少し心残りです。でも、自分から行動しないと何もはじまらなかったからこそ変わったし、また何か初めてのことがあったときにもここでの積極的な姿勢は役立つと思っています。違う学校の違う学年の違う性格の友達ができただけは自信に繋がらず、自分にはなかった考えを聞いたので、そう考えることもできるのか、前の講義を生かすのもいいのだと、物事を考えるときの視野を広げることができました。



4 卒業生の感想文

また、サポーターさんの「型抜き」企画では、自分の成長というより振り返りや自分の中の整理をすることができました。夜寝る前だったこともあり、一日のリセットもして明日また頑張ろうとリラックスして臨むことができました。自分だけで進めるとき、他の人と意見交換をするとき、班で発表するときなど、その日その日ごとに違ったゴールに向けて取り組むことが楽しかったです。時々模造紙を見て、思い出にひたりながら、私ってこうなんだ、憧れはこの人なんだと確認できたらいいなと思います。

最後になりますが、この塾に関わってくださった皆さん、ありがとうございました。4日間という短い期間を濃いスケジュールで多くのことを学ぶことができました。今後、私も与えられる側から与える側になってまた参加したいなと思います。当分きらめきロスから抜けられない気もしますが、今までで一番充実した夏の4日間でした。ありがとうございました。

感想文 ⑦ 世界発信の必要性

きらめき未来塾に参加し、普段過ごす4日間とは比べられないほど充実していて自分自身が成長できたと感じます。全国から来る多様な考え方をを持った同世代の人達と、話して講義を一緒に受けるうちに私とみんなとのレベルの差に焦りを感じていました。

恥ずかしがらないで自分の意見を人前ではっきり言える子達や自分の軸がちゃんとある子達ばかりで本当に圧倒されました。4人の先生方が話してくださったことは、どれもためになる話ばかりで、講義を受けられたことがとても嬉しかったです。

明日から世界に関わるトピックに自ら興味を持って今より多くの知識を入手したいです。情報をintelligenceに変えて心の目で物事を見て世界に発信していく必要があると思います。

この4日間を終えた後の過ごし方は本当に自分次第だと思います。もっともっと成長できるように何事にも一生懸命に取り組みたいと思いました。

5 参考資料

(1) きらめき未来塾タイムスケジュール

	8/5 (月)	8/6 (火)	8/7 (水)	8/8 (木)	
6:00		起床	起床	起床	6:00
7:00		6:30~7:15 朝の集い (点呼、国旗掲揚、事務連絡、運動)	6:30~7:15 朝の集い (点呼、国旗掲揚、事務連絡、運動)	6:30~7:15 朝の集い (点呼、国旗掲揚、事務連絡、運動)	7:00
8:00		7:15~8:00 朝食	7:15~8:00 朝食	7:15~8:00 朝食	8:00
9:00		8:00~8:30 課業準備	8:00~8:30 課業準備	8:00~8:30 退所準備	9:00
10:00	① 08:56 東京 ↓やまびこ 129 号 10:13 郡山 ② 9:41 仙台 ↓やまびこ 132 号 10:07 福島 10:20 郡山駅集合 バスで二本松駅経由 →現地	8:30~10:15 講義 + ディスカッション 西原春夫先生 令和日本の国家像 —法治有徳の平和国家をめざして—	8:30~10:15 講義 + ディスカッション 井之上喬先生 次世代を担う皆さんへ ～グローバル時代に必要とされる パブリック・リレーションズ～	8:30~11:30 塾生発表 (アフメーション) 卒業式 写真撮影	10:00
11:00	11:00 JR 二本松駅前集合・バス移動 ※現地に直接来られる方は11:45現地集合	10:30~12:15 講義 + ディスカッション 渥美育子先生 グローバル・アイを持って —私たちは人間が間違った部分を直せるか—	10:30~12:15 講義 + ディスカッション 鷲山恭彦先生 伝統思想を現代に活かす ～二宮尊徳の縦徳思想と日本の課題～	11:30~12:00 荷物移動・鍵返却	11:00
12:00	受付・荷物搬入	12:15~13:00 昼食	12:15~13:00 昼食	12:00~13:00 昼食壮行会 (立食ビュッフェ)	12:00
13:00	12:00~12:45 昼食 講義集合	13:00~13:30 講義準備	13:00~13:30 講義準備	13:00 JICA 二本松訓練所 出発	13:00
14:00	13:00~14:00 入塾式 鷲山塾長講話	13:30~15:10 国際理解・教育 ① 講座 by JICA	13:30~15:10 国際理解・教育 ③ 講座 by JICA	四日間 充実した生活で学び、経験したことが、 今後の進路決定に役立つことを願っています。	14:00
15:00	14:15~15:45 質疑応答・休憩 JICA 副理事長 越川和彦先生 基調講演	休憩・準備 15:20~17:00	休憩・準備 15:20~17:00		15:00
16:00	14:15~15:45 質疑応答・休憩 アイスブレイク	国際理解・教育 ② 講座 by JICA	国際理解・教育 ④ 講座 by JICA		16:00
17:00	16:20~18:00 オリエンテーション 施設案内	17:00~17:30 休憩・準備	17:00~18:00 休憩・準備・身辺整理		17:00
18:00	18:00~18:40 夕食	17:30~22:00 野外訓練	18:00~18:40 夕食		18:00
19:00	18:40~20:00 入浴 身辺整理	夕食作り グループワーク	18:40~20:00 入浴 身辺整理		19:00
20:00	20:00~21:00 JICA 「JICA 企画」	テント泊 ※雨天の場合は別カリキュラム予定	20:00~21:00 JICA 「JICA 企画」		20:00
21:00	21:00~21:45 目標設定 1日の振り返り等 就寝準備		21:00~21:45 目標設定 1日の振り返り等 就寝準備		21:00
22:00	22:00 消灯	22:00 消灯	22:00 消灯		22:00
23:00					23:00

(2) 4日間の生活写真

■入塾式



■集合・昼食



■入塾式・JICA山本元局長講話



■きらめき未来塾企画



■朝の集い



きらめき未来塾 講義風景

■西原先生



■渥美先生



■井之上先生



■鷺山先生



きらめき未来塾 講義風景

■言語学習



■貿易ゲーム



世界を知る・日本を知る



野外調理実習



卒塾発表準備



卒塾式



チーム集合写真



チーム集合写真



全体集合写真



昼食壮行会



集合写真





2019

